

# 第71回日本PTA全国研究大会広島大会

期日：令和5年8月25日(金)～26日(土)

場所：広島県広島市・東広島市・福山市・呉市・府中町

『変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！』と見つけ 考え かわろつや ぶち楽しいで!!〜広島から全国へ』を大会スローガンに、今年度の日本PTA全国研究大会が広島県内5市町で開催され、本県からも15名の会員が参加しました。大会の様子を2回に分けて報告します。第1回は、第3分科会に参加した、盛岡・見前南中PTAの福田育英さん(県P連副会長)です。

第3分科会では、岩手県でも進められているコミュニティ・スクールの土台となる

『学校教育と地域連携をどう進めていくか』について、シビックプライド(地域への誇りと愛着)の観点から進めた事例などを紹介していただきました。



具体的には、子ども達がお気に入りの場所写真撮影を行い、それにお気に入り理由を付したポータルマップを作成し、続いて、大人も同様に写真撮影を行いポータルマップに追加するという取り組みでした。



このようにして作成されたポータルマップは、今までに気づくことのなかった『地域の魅力発見』や『地域の活性化』につながると共に、地域を昔から支えている方々にも地域の魅力の再発見などが伝播するといった事例でした。



また、この取り組みからは、『小さく生んで大きく育てる』ために最初から全部を決めるのではなく、後から参加をする人たちに『関わりしろ』を残しておくことの重要性も確認することが出来ました。さらに、全体会の記念講演では、人工知能研究者である黒川伊保子さんから脳科学に基づくと子どもとの関わり方についてお話があり、講演の中で『心理的安全性』の内容として、子どもとの会話の中で、何でもないことを話せ、相手に安心感を与えるための『いいね』か『わかる』という対応で相手の話を受ける。また、もしも間違った内容である



場合でも、『そうなんだ』や『そんなこともあるんだ』などの言葉を返して正しいことを教えてあげるといってお話がありました。このようにして相手の自己肯定感を下げないことが『人生の敵になるか、師となるか』の分かれ道であるということも学ぶことが出来ました。岩手県では、全国に先駆けて昭和40年から教育振興運動が進められておりますが、近年の人口減少や教職員の負担増などの対策として学校運営協議会の設置やコミュニティ・スクールの導入も進められています。このような近年の動向に対する課題の確認や脳科学に基づくと子どもとの接し方、素質の伸ばし方を学ぶための良い機会となりました。ありがとうございました。(第3分科会の報告 福田 育英)